

# 2020年3月期第2四半期決算説明会

株式会社日本動物高度医療センター（東証マザーズ：6039）

2019年11月13日

## I 決算の概要

## II 中期展望



# I 決算の概要



# 2020年3月期 2Q 決算概要

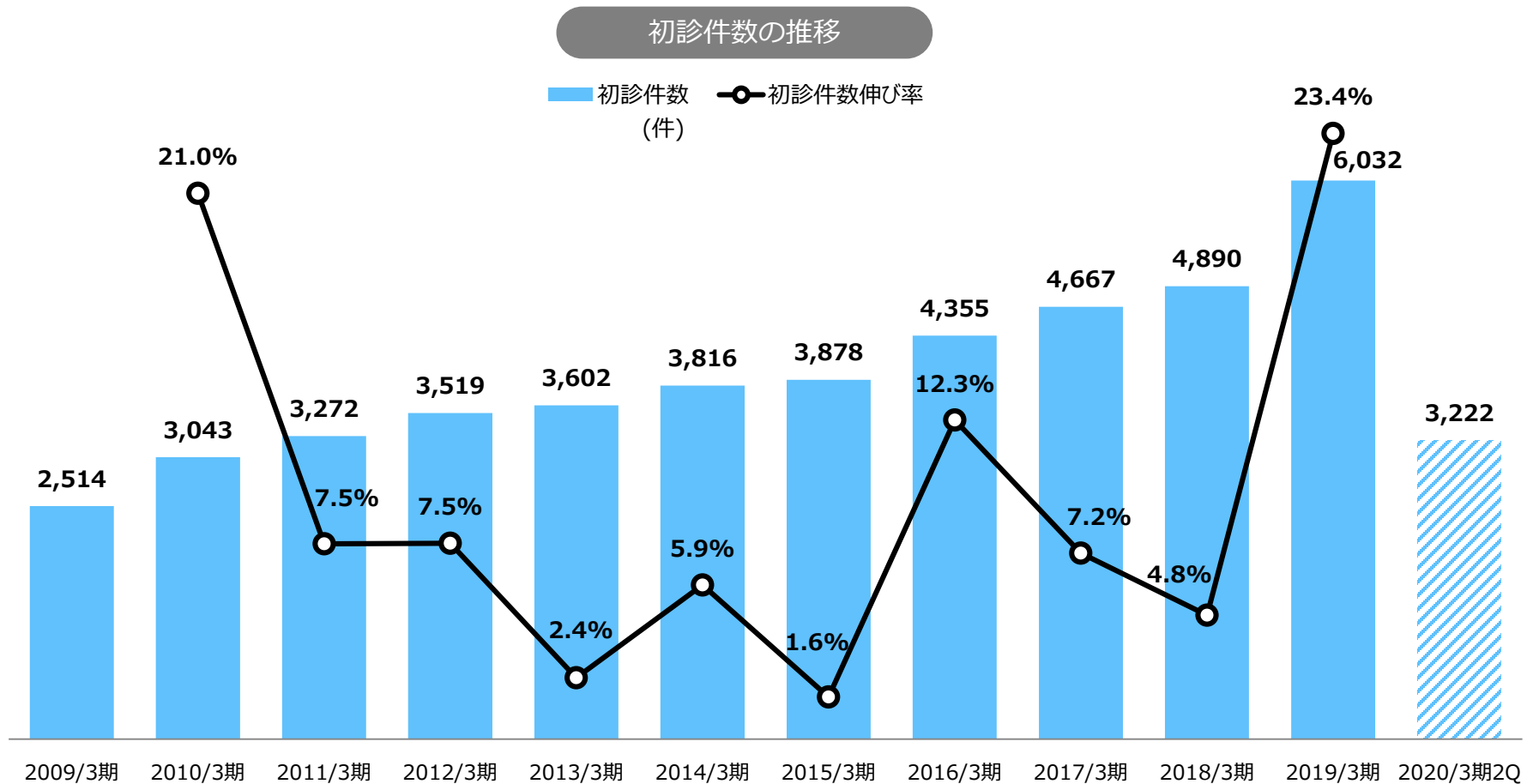
- 2020年3月期2Qは初診数、総診療数とも成長が続き、増収増益を達成
- 2018年1月に開設した東京病院は初診数、総診療数とも堅調

(百万円、%)

	2019/3期		2020/3期			
	2Q 実績	構成比	2Q 実績	構成比	前年同期比	
売上高	1,246	100.0	<b>1,358</b>	100.0	+112	+9.0%
営業利益	179	14.4	<b>218</b>	16.1	+39	+21.8%
経常利益	181	14.5	<b>222</b>	16.3	+41	+22.7%
親会社株式に帰属する 四半期純利益	147	11.8	<b>158</b>	11.6	+11	+7.5%
1株当たり 四半期純利益	61.21円	-	<b>65.32円</b>	-	+4.11円	+6.6%

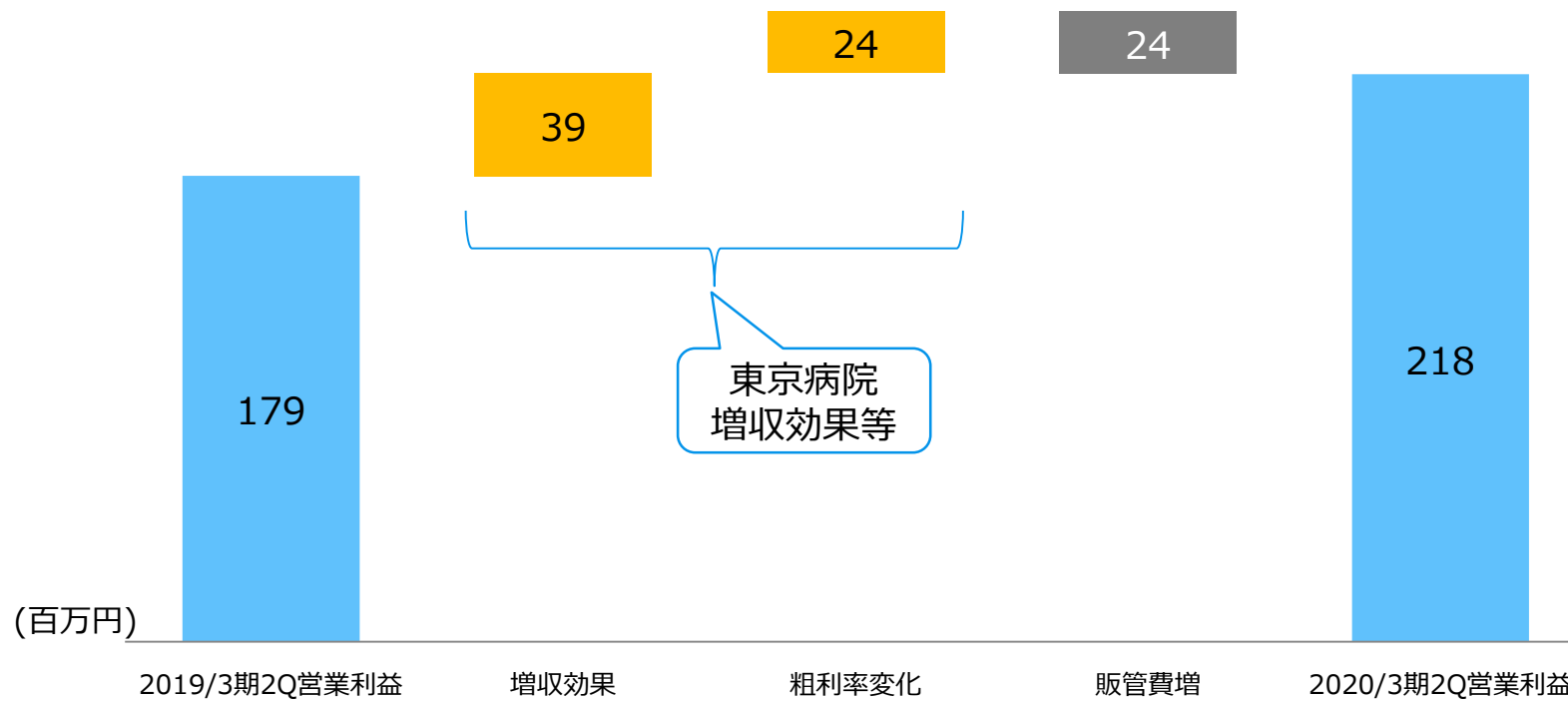
# 初診数（紹介数）の推移

- 初診数は3,222件（前年同期は2,939件）、前年同期比+9.6%と好調に推移
- 川崎病院、東京病院、名古屋病院とも引き続き増加



# 営業利益増減要因

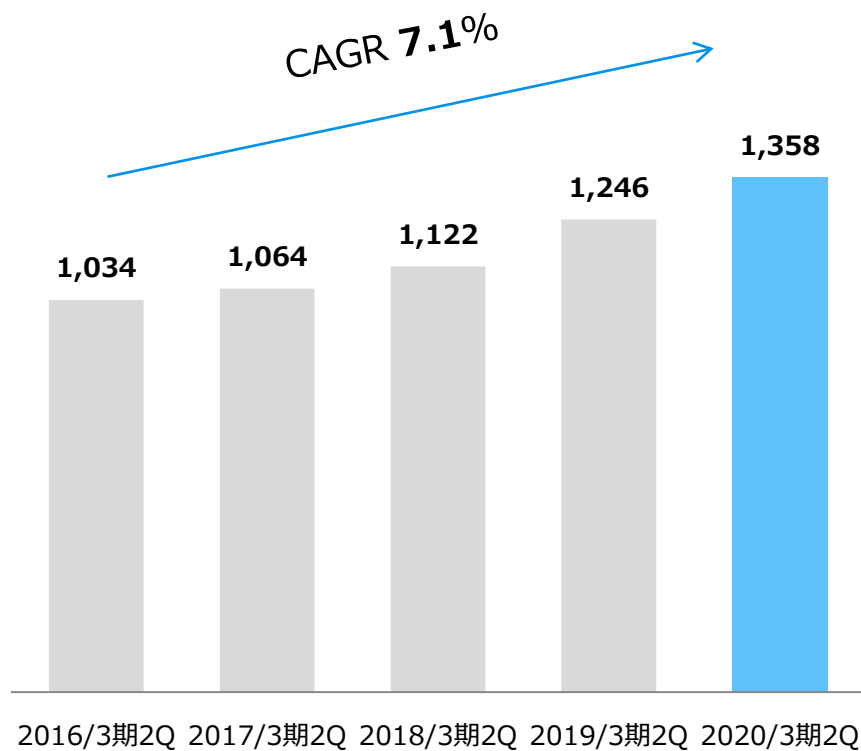
- 2018年1月に新設した東京病院の増収効果等で、販管費の増加を吸収



- 売上高は前年同期比+9.0%、 営業利益は同+21.7%
- 増収による売上総利益率の上昇により、営業利益率も16.1%へ

売上高の状況

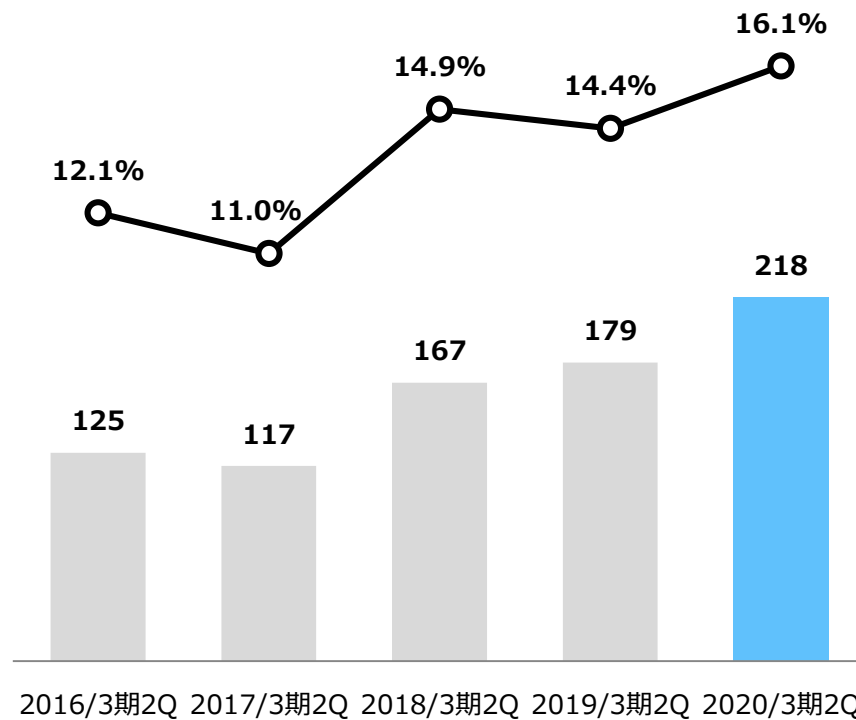
(百万円)



営業利益・同利益率の状況

(百万円)

— 営業利益 —●— 営業利益率



# バランスシート状況

- 営業キャッシュフローと現預金で有利子負債を削減、自己資本比率は33.6%に上昇

(百万円)	2019/3期	2020/3期2Q	3月末比
流動資産	1,480	<b>1,374</b>	▲106
現預金	1,250	<b>1,152</b>	▲98
売掛金	142	<b>135</b>	▲7
固定資産	4,607	<b>4,556</b>	▲51
有形固定資産	4,429	<b>4,372</b>	▲57
総資産	6,088	<b>5,931</b>	▲157
負債	4,259	<b>3,939</b>	▲320
有利子負債	3,834	<b>3,569</b>	▲265
純資産	1,828	<b>1,991</b>	+163
負債純資産合計	6,088	<b>5,931</b>	▲157

有利子負債依存度は  
63.0%から60.2%に低下

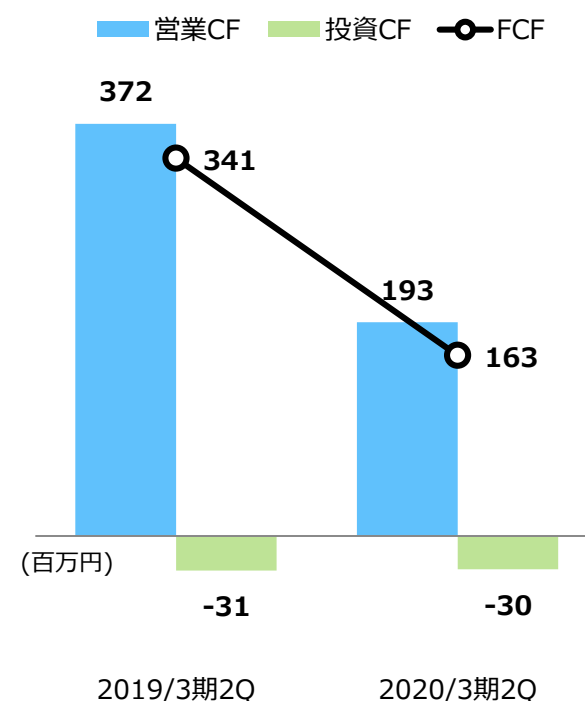
自己資本比率は  
30.0%から33.6%に上昇



# キャッシュフローの状況

- 増益となったが、2019年3月期2Qに消費税還付等があった影響で、営業CFは1.7億円減少の+1.9億円へ  
2020年3月期2Qも大きな投資がなく、FCFは+1.6億円

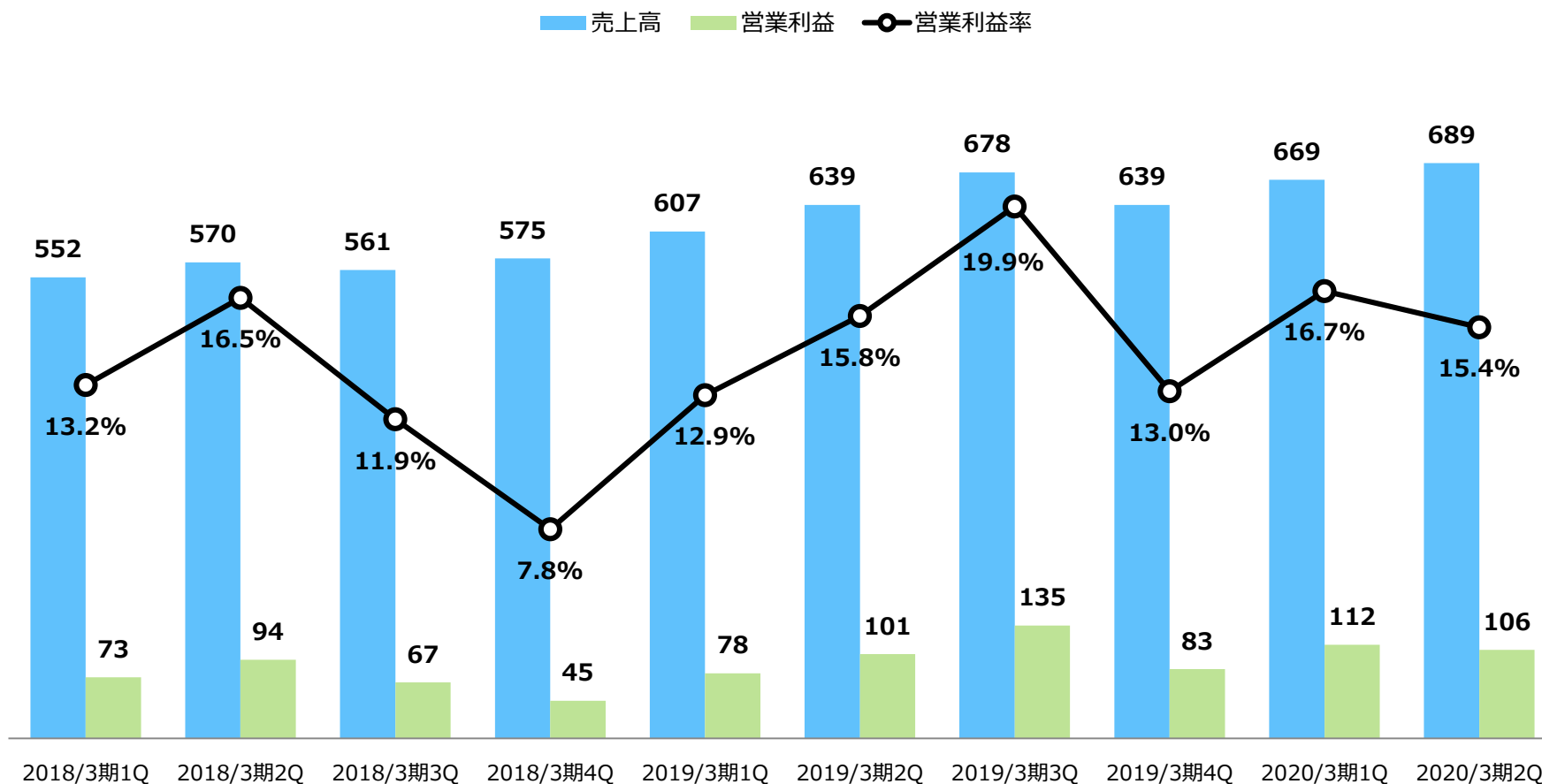
(百万円)	2019/3期2Q	2020/3期2Q	前年同期比
営業CF	372	193	▲179
税金等調整前 四半期純利益	181	223	42
減価償却費	115	108	▲7
未収消費税等の増減	58	-	▲58
未払消費税等の増減	38	▲77	▲115
投資CF	▲31	▲30	+1
有形固定資産取得	▲25	▲12	+13
FCF*	341	163	▲178
財務CF	▲111	▲261	▲150
有利子負債の増減	▲113	▲264	▲151
株式発行による収入	4	4	±0



\*FCF (フリー・キャッシュフロー) = 営業CF + 投資CF

# (ご参考) 四半期決算 業績推移

- 2020年3月期2Qは1Q比で増収となったが、6百万円の営業減益  
看護師の増員等による人件費増加と修繕費増加が主因  
下期以降は、増収で費用増加を吸収する方針



# 2020年3月期の見通し

- 売上高、利益とも期初計画を継続  
下期は東京病院稼働効果は一旦、落ち着くと想定し、売上高、営業利益ともやや保守的に想定
- 「働き方改革」の対応は実施を継続

(百万円)	2019/3期	上期実績	下期計画	2020/3期計画	前期比	
売上高	2,563	<b>1,358</b>	1,292	2,650	+87	+3.4%
売上総利益	923	<b>500</b>	—	—	—	—
営業利益	397	<b>218</b>	192	410	+13	+3.3%
経常利益	404	<b>222</b>	188	410	+6	+1.5%
親会社株主帰属当期純利益	294	<b>158</b>	142	300	+6	+2.0%
営業利益率	15.5%	<b>16.1%</b>	—	15.5%	±0.0 p	—
経常利益率	15.8%	<b>16.4%</b>	—	15.5%	▲0.3 p	—
当期純利益率	11.5%	<b>11.7%</b>	—	11.3%	▲0.2 p	—

## Ⅱ 中期展望



①

ペット数、ペット保険市場の拡大

②

拠点拡大

③

連携病院数の拡大

④

新規事業の拡大継続

# ①-1 動物医療業界を取り巻く環境

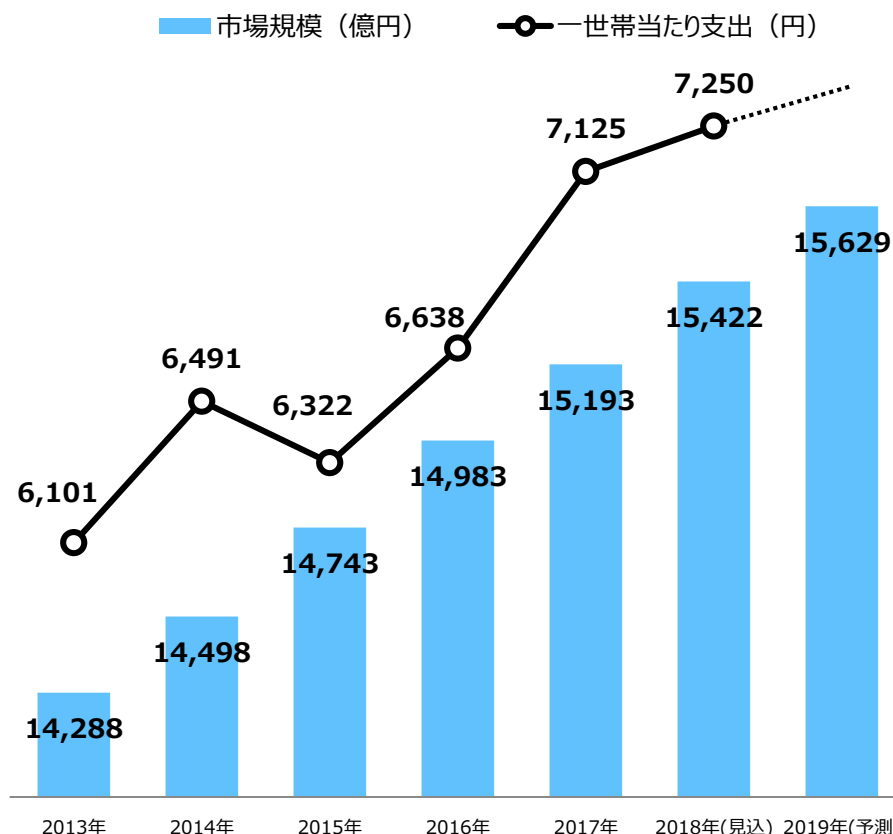
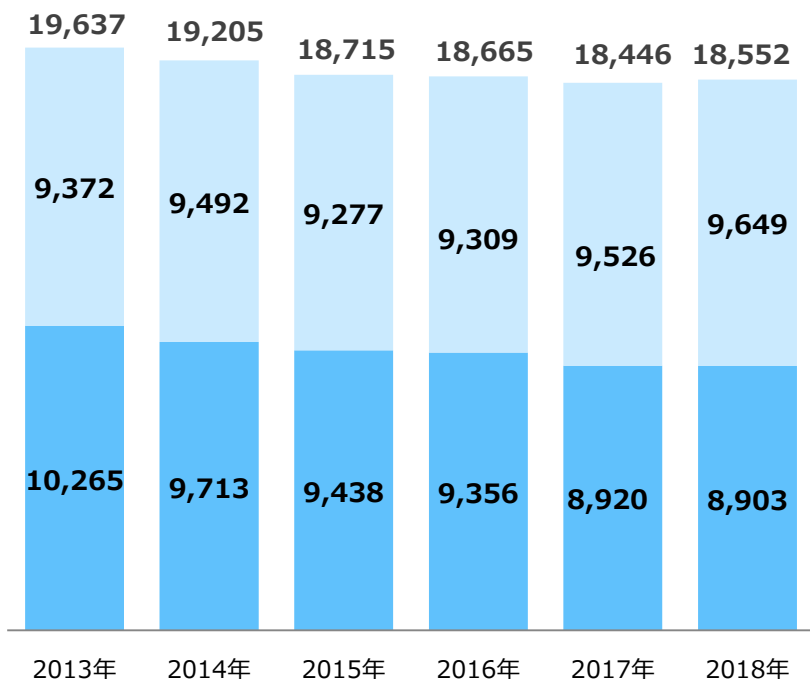
■ 犬猫の飼育数は漸減傾向だが、世帯当たり動物病院支出額が増加し、市場規模は増加

犬猫飼育頭数

市場規模と一世帯当たり動物病院支出額

■ 犬飼育数 ■ 猫飼育数

(千頭)

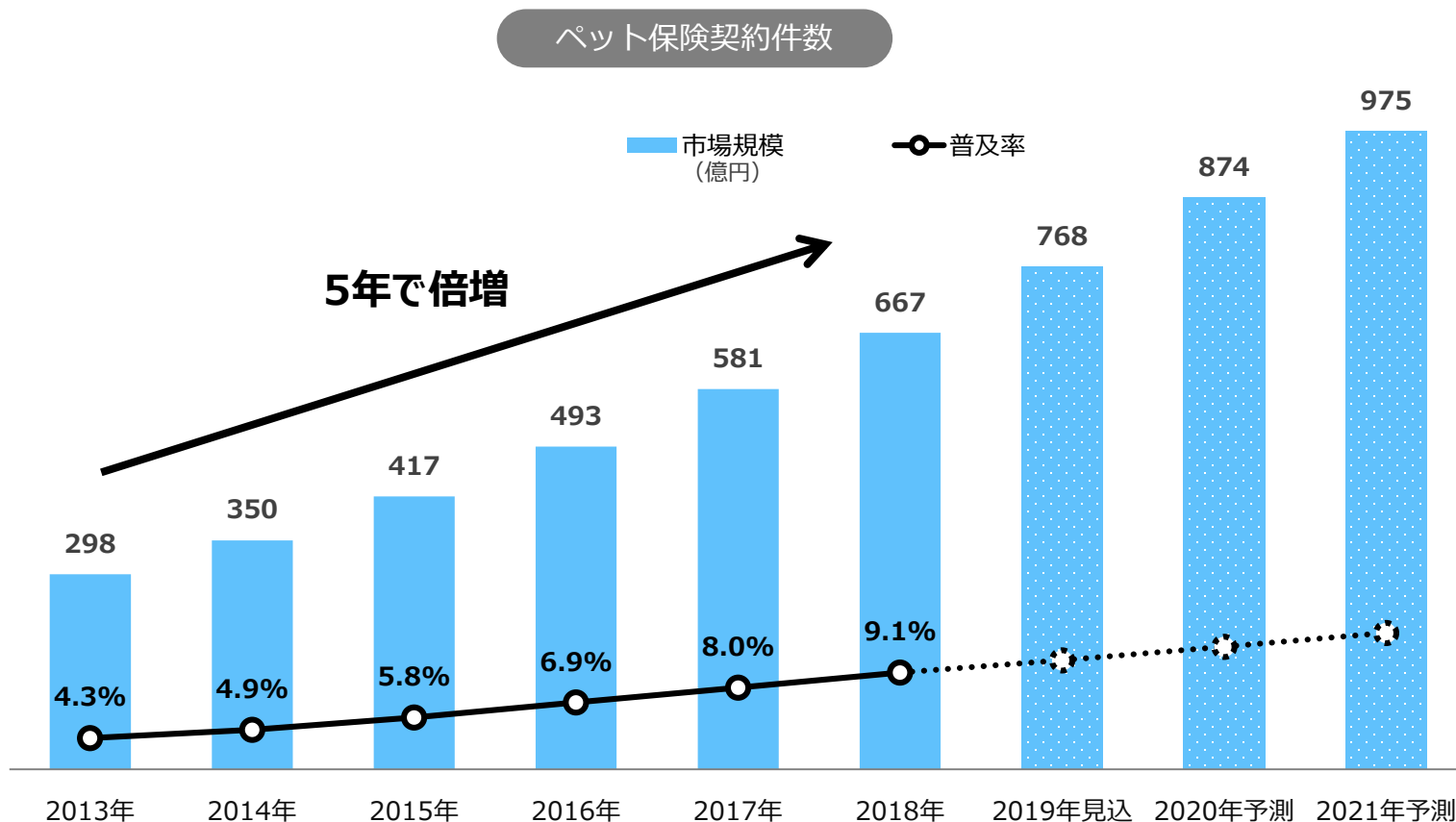


出所：日本ペットフード協会「平成30年(2018年)全国犬猫飼育実態調査結果」

出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2018版」、総務省「家計調査」

## ①-2 ペット保険の成長性

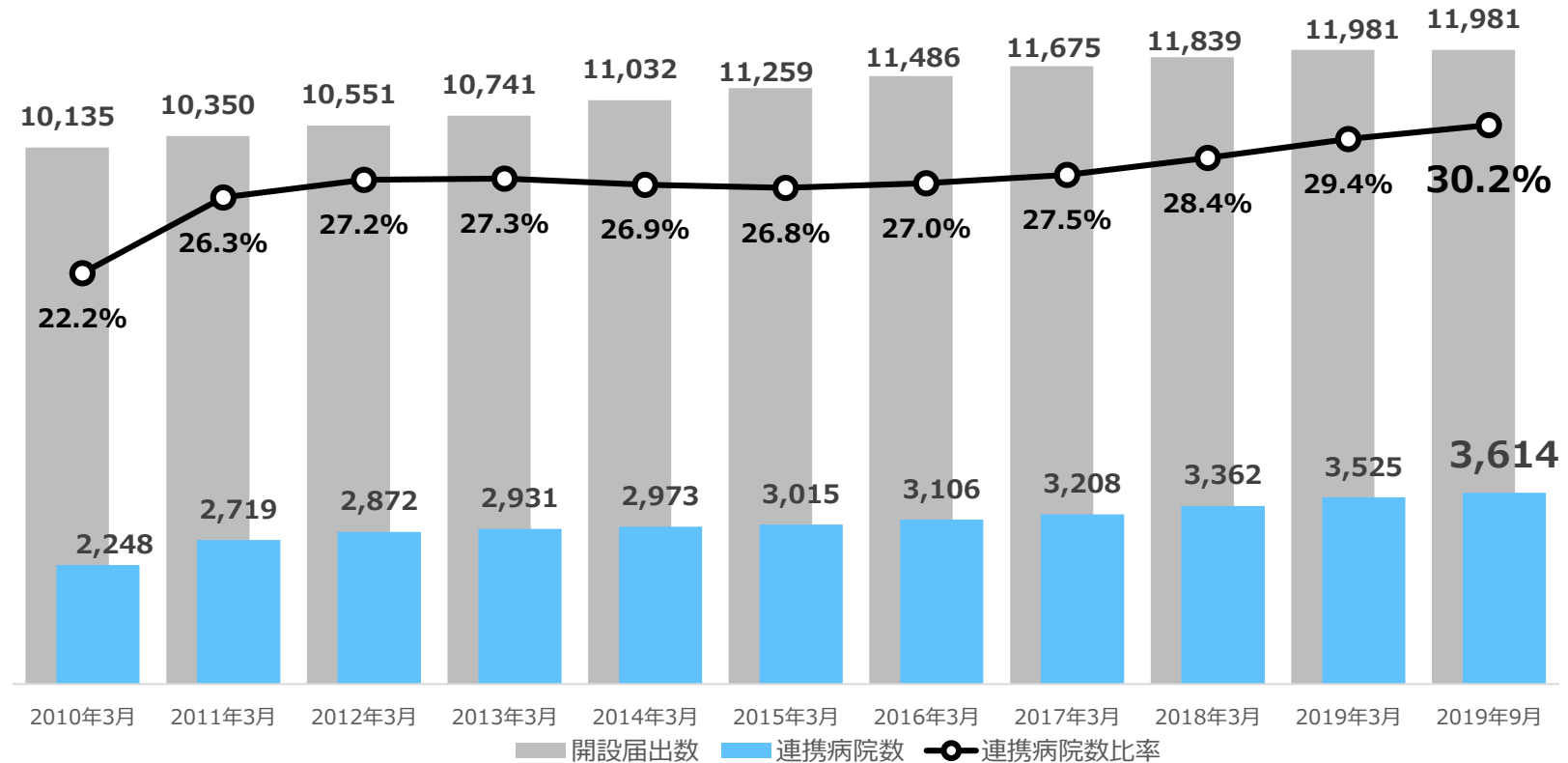
- ペット保険の市場規模は5年間で倍増しており、今後も拡大が続く見通し
- ペット保険普及率は、まだ一桁台であり、更なる普及が見込まれる



出所：富士経済 2019ペット関連市場マーケティング総覧

## ②拠点拡大、及び、③連携病院数の拡大

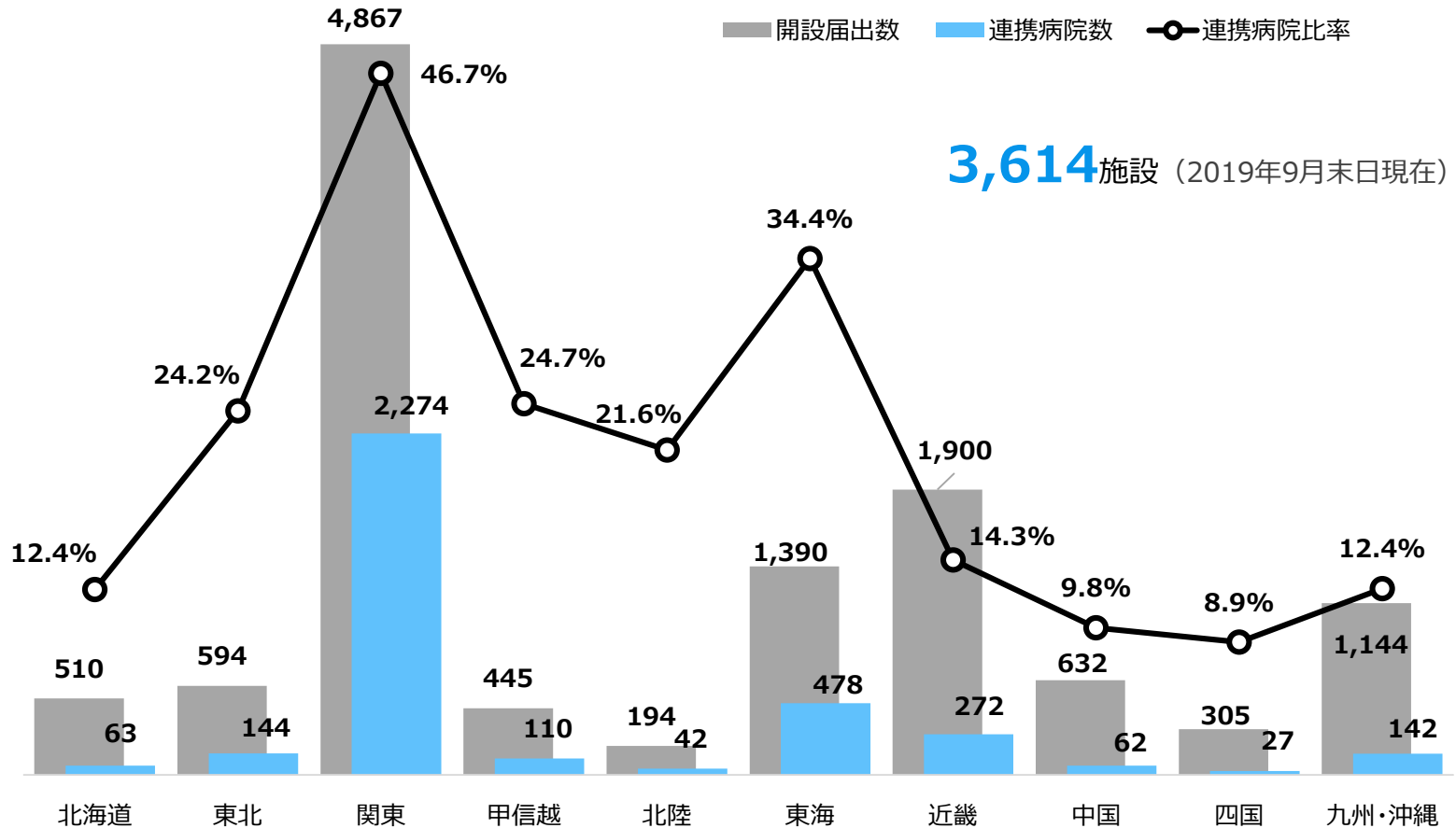
- 大阪病院（仮称）は、2021年秋頃の開業予定の方針は変わらず
  - ・ 東名阪の拠点をもとに、連携病院の拡大加速へ
- 連携病院数：**3,614**施設、同比率：**30.2%**（2019年9月末日現在）



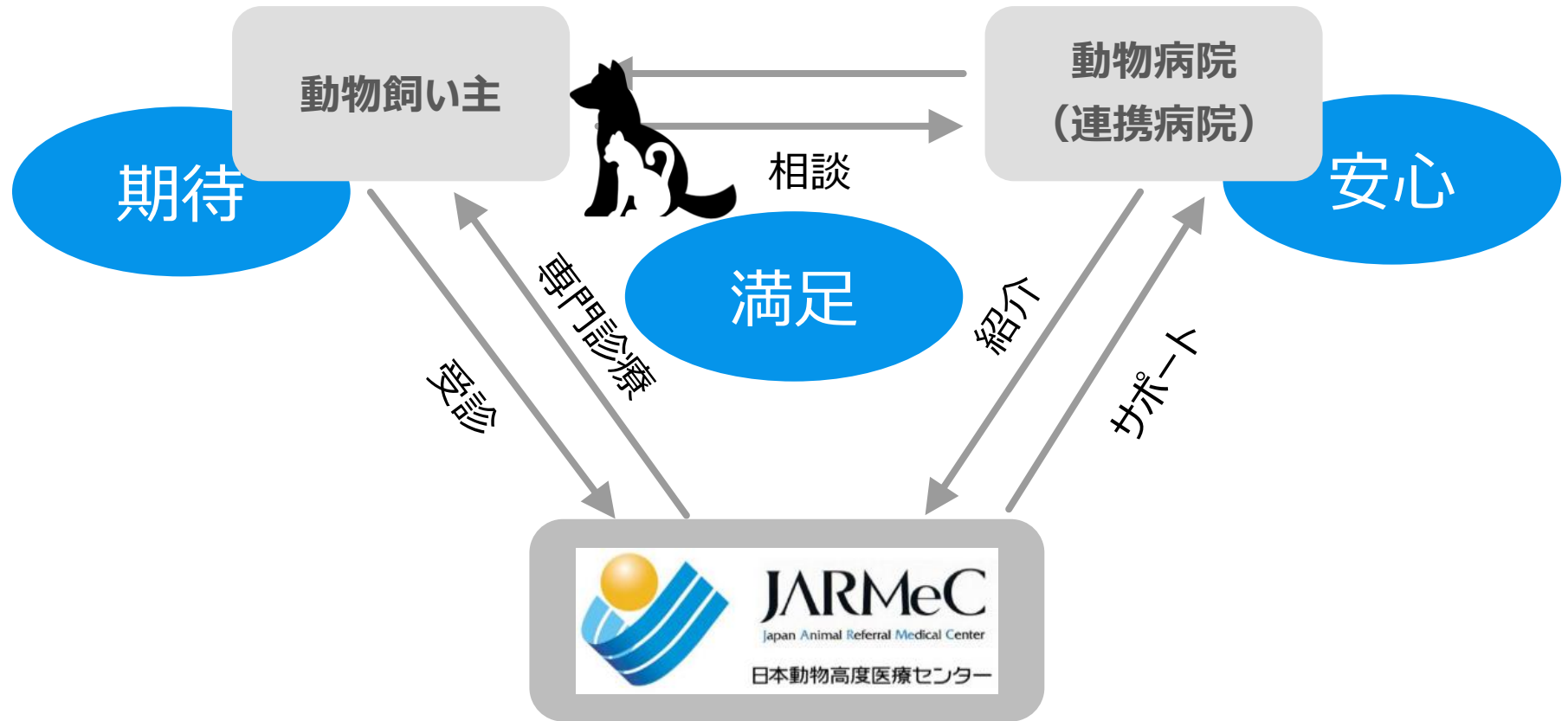
(注)開設届出数は農林水産省（前年12月末時点の小動物診療施設の軒数）



# (ご参考) 地域別連携病院数



(注) 地域別の開設届出数は農林水産省より、2018年12月末時点の小動物診療施設の軒数  
連携病院数は2019年9月末時点の軒数



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」
- ✓ かかりつけ動物病院様が**安心**して紹介
- ✓ 患者動物・飼い主様が**期待**して受診
- ✓ その結果皆様と共に我々も**満足**できる動物医療を目指すことで、広く社会に貢献

### <見通しに関する注意事項>

- 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

#### <お問い合わせ先>

株式会社日本動物高度医療センター

044-850-1320

e-mail : takayuki.ishikawa@jarmec.jp